

# 地域子育て支援拠点研修事業<高山開催>

## “うちの子”も“その子”も一緒に育てんけな！

### ～子育て支援拠点でつながり響き合うひととまち～

#### ＜開催概要＞

開催日◆2009年10月30日（金）10:00～16:45

会 場◆高山市市民文化開館（岐阜県高山市昭和町1—188—1）

主 催◆財団法人こども未来財団・NPO法人子育てひろば全国連絡協議会

後 援◆厚生労働省・（社福）全国社会福祉協議会・岐阜県・高山市・飛騨市・下呂市  
高山市社会福祉協議会

協 力◆地域子育て支援拠点研修事業<高山開催>実行委員会・高山市商店街振興組合連  
合会「まちひとぶら座かんかこかん」

参加者数◆ 参加者合計 228名（男性 38名 女性 190名）

（行政 66名 NPO任意団体 80名 その他団体/企業 44名 その他 38名）

#### ＜開催趣旨＞

平成19年度より、つどいの広場事業、地域子育て支援センター事業を統合し、児童館などのスペースも活用しながら、地域子育て支援拠点事業（ひろば型、センター型、児童館型）が新たに再編されました。そこで、行政とともに地域における子育て支援拠点間の連携を図りながら、地域子育て支援拠点の意義と役割を検証します。また、拠点スタッフ一人ひとりが日頃の活動を振り返り、見識を深め、スキルアップに寄与することを目的とします。

#### ＜プログラム趣旨＞

地域の中で子育てを考える時、“まちづくり”的視点は欠かせません。地域に住むいろいろな世代の人が知恵や力を出し合って、子育てを支えていくことが、今求められています。人と人がつながり合ったあたたかい地域コミュニティの中で、子育てはおこなわれ、そしてその出会いが、地域づくり、まちづくりにつながっていきます。

子育て支援拠点をつくりあげていくために、それぞれの役割を認識し、行政と市民、子育て支援にかかわる人たちが一緒にになって考える場とします。

#### ＜開会挨拶＞

主催者挨拶 仲山 章さん 財団法人こども未来財団 常務理事

開催地挨拶 荒井信一さん 岐阜県高山市副市長

実行委員長挨拶 伊藤早苗さん まちひとぶら座かんかこかん運営委員長



財団法人こども未来財団 常務理事  
仲山 章さん



岐阜県高山市副市長  
荒井信一さん

◆プログラム1 基調報告 10:15~10:45 小ホール

「地域子育て支援拠点事業の概要と展望」

厚生労働省雇用均等・児童家庭局総務課少子化対策企画室室長補佐 鈴木健吾さん

地域子育て支援拠点事業の位置づけから始まり、次世代育成支援の枠組みや、平成22年度からの後期「地域行動計画」策定における、計画の点検・評価についてなど、国の施策と動向を、豊富なデータをもとに、具体的に説明していただきました。最後に、子育て支援は地域で支えることが重要であり、子育てにやさしいまちづくりの視点も含めた環境づくりが必要であると話されました。



◆プログラム2 基調講演 10:45~11:55 小ホール

「子どもの時間を共に生きる！」～かかわり合い生き合う力の土台づくり～

講師 NPO法人あそび環境 Museumアフタフ・バーバン理事長 北島尚志さん

「子どもたちは、あそびの世界の中で、“生き合う力”を育み、自分らしく表現をしていく力を培っていく。また、他者とのかかわり合いの中で、思いや感情を分かち合い、コミュニケーション力を高めていくものである。」と話される北島さんの講演は、こころと体をときほぐすワークショップから始まりました。そして、子どもの世界における3つの課題、「禁止」「すぐ答えのできるスイッチ」「あそびの消化」というキーワードから、今、子どもたちにみられる「副作用」について話されました。人間としての土台づくりに、大人がどう関わっていくのか。大人も、子どもの心に共鳴し、寄り添い、響き合う関係をつくりあげていかなくてはいけないのではないか・・・と、参加者それぞれが、もう一度子どもへのまなざし、子どもとのかかわりを見直すことをあらためて考えさせられ、参加者からは、「力強いパワーをいただけた」「明日からの実践に役立てたい」という声が寄せられました。



◆プログラム2 対談 11:55~12:15 会場: 小ホール  
NPO法人あそび環境 Museum アフタフ・バーバン理事長 北島尚志さん  
NPO法人びーのびーの理事長 奥山千鶴子さん

北島氏の講演を受けて、「おとなたちが、子どもの視点を大事にすること」「おとなの中の“子どもの時間”を引き出し、子どもの気持ちに寄り添っていくこと」など、子育て支援拠点に関わるおとなが、子どもとどのように関わっていくのか、などが話し合われました。子育て支援拠点のあり方、役割などについて、あらためて考えさせられ、参加者にとって、午後の分科会でのより有意義な話し合いのきっかけになったようです。



◆プログラム3 分科会  
<第1分科会> 13:15~15:15 会場: 4F 4-7  
「子育て支援拠点を一緒につくりあげるには  
～市民・民間・行政協働で支え合い、補い合うコミュニティ～」  
コーディネーター 愛知産業大学大学院教授 延藤安弘さん  
事例報告者 NPO法人サン・はぎわら理事長 松山則樹さん  
高山市中心市街地活性化推進室長 田谷孝幸さん  
NPO法人びーのびーの理事長 奥山千鶴子さん

「町が私達に何をしてくれるのかを問う前に、私たちは、町や地域に何ができるのかを自問自答すべきである」と、市民による地域力を呼び覚ますことを目的に、まちづくり活動をされている松山則樹さんは、平成19年、町営の保育園が、他所の事業者に民営委託されてしまうのではないかとの危機感から、指定管理者に名乗りをあげられたお話をされました。現在は、隣接する児童館の運営もされており、高齢者のボランティアをはじめ、地域の人が気軽に集える広場として、町ぐるみで、子育てを応援しようという気運が高まっていると話されました。

一市民としてもまちづくり活動を続けておられ、行政と市民をつなぐキーパーソンとして活躍中の、高山市役所の田谷孝幸さんは、12年前から始まった、市民・民間・行政による市民参加のまちづくり活動から、現在にいたるまでの「高山市の協働によるまちづくり」を説明されました。高山市役所全館を使って、市役所まるごとこどもの城となる、こども・子育てをテーマとした市民と行政、協働によるまちづくりイベント「冬のあったか縁日」など、多彩な活動事例について紹介されました。それぞれができるところで、力を持ち寄ってやっていくこと、自分が楽しんでやっていくこと、「こども・子育て」協働によるまちづくりは多種多様であることなどを話されました。

母親と行政をつなぐ役割が必要ではないかと、活動を始められた奥山千鶴子さんは、自分たちの声を上げていくこと、自分たちの活動のどこが大切なかをきちんと行政に伝え、現場から行政につないでいくことの必要性や、目指すべき拠点の姿として、港北区地域子育て支援拠点「どろっぷ」の協働協定書を行政とともに作成された経緯や、NPOも行政も、子育て支援拠点をつくり上げていくために、それぞれの役割を確認しつつ、連携していくことの大切さなどを話されました。

3人とも、それぞれ、自分発の協働スタイルを、ポイントを押さえて大変わかりやすく発表されました。

コーディネーターの愛知産業大学大学院教授の延藤安弘さんから、活動する上で大切なことは、一人一人から始まった小さな円が、大きな円となってつながっていくことであり、さらに、子どもだけでなく、親も行政も、高まり合い、育ち合っていくことが重要であるとのお話がありました。また、子育て支援拠点をつくりあげるための「協働の作法・6つのキーワード」を挙げられ、“縁が輪”つながりで、ゆるやかな共感のネットワークづくりを広げようと話され、これから協働は、「おまえやれ」から「おもいやり」へではないか、と、大変わかりやすくまとめていただきました。



延藤安弘さん



松山則樹さん 田谷孝幸さん 奥山千鶴子さん



＜第2分科会＞ 13:15～15:15 会場：2F 2-5

「地域子育て支援拠点ってなあ～に？」

それぞれの機能・役割。まずは聴いてみて。あなたの活躍の場は。」

～ひろば型・センター型・児童館型～

コーディネーター	NPO法人くすくす理事長	安田典子さん
事例報告者	まちひとぶら座かんかこかん運営委員長	伊藤早苗さん
	揖斐川町揖斐川子育て支援センター所長	高橋和子さん
	速川児童館&親と子のともだちサロンはやかわ 館長代理・児童厚生員	上野佐知子さん
ファシリテーター	岐阜県健康福祉部子ども家庭課 飛騨市市民児童課子育て政策係	成瀬公人さん
	高山市地域子育て支援センター	小林ひろみさん
	高山市子育て支援課	西田真由美さん 脇谷芳樹さん

最初に、参加者全員で、地域子育て支援拠点事業の共通の役割、ひろば型・センター型・児童館型の実施形態・事業内容などについて、配付資料を参考にしながら、それぞれの役割を再確認しました。

その後、3つの型の事例報告がありました。「ひろば型」からは、「まちひとぷら座かんかこかん」運営委員長の伊藤早苗さん。

「こんな空間がまちなかにあったらいいな」からスタートした、市民・民間・行政協働による手づくりのまちづくり活動から生まれたひろばは、商店街振興組合が運営する全国でも珍しい民設民営のひろばです。「地域で子育て・みんなで子育て」を信条に、地域に住むいろいろな年代、職業、立場の人たちが一緒になって取り組んでいる、さまざまな活動事例を発表されました。「一人ではできないことも、いろいろな人が力を合わせればできる。人ととのつながりが大切」と話されました。

「センター型」からは、岐阜県揖斐川子育て支援センター長の高橋和子さん。

合併で日本一大きな町になった揖斐川町において、町に一つだけの大型子育て支援センターとして、育児支援や、相談指導、子育てサークルへの支援など、機能の充実に努力されています。地域の集会場や保育園への地域支援に出向き、また、福祉総合支援施設に隣接していることなどから、関係諸機関と連携した、迅速かつ専門的な対応など、センターならではの機能を生かし、地域の子ども達を見守っていることを話されました。

「児童館」型からは、富山県氷見市にある「速川児童館＆親と子のともだちサロンはやかわ」の館長代理・児童厚生員上野佐知子さん。

保育所併設型の私設児童館、特に乳幼児専用のスペースや利用時間を設けず“自然交流”が基本のサロンでの、異年齢の子供同士の育ち合い、地域に住むお年寄りとの自然な関わりなど、高齢者やボランティアも加わって地域住民で支える山あいの児童館のあり方を話されました。

3つの型の特徴が、とてもよく出たそれぞれの活動報告でした。その後、参加者全員が、事例報告者を交えて、ひろば型、センター型、児童館型にわかつてグループワークを行い、活発な意見交換が行われました。

地域の拠点として、それぞれの活動の機能・役割を問い合わせつつ、次世代の子どもたちが安心して暮らせる地域となるよう、子育てを核とした地域の再構築のための共通点も探り合う、ということができた分科会でした。



安田典子さん



伊藤早苗さん



高橋和子さん



上野佐知子さん



＜第3分科会＞ 13:15～15:15 会場：2F 2-3

「子育て支援拠点におけるスタッフの、喜び・悩み・やりがい

～活動中のみなさん、一緒に語り合いましょう～」

コーディネーター	NPO法人子育て支援のNPOまめっこ理事長	丸山政子さん
ファシリテーター	飛騨市ファミリー咲 <sup>ホ</sup> -ト団体スマイルキッズ 萩原にこにこサークル 高山市社会福祉協議会 まちひとぶら座かんかこかんこどもひろば 高山市子育てコーディネーター	澤谷由紀子さん 島恵美子さん 中川淳一さん 野上明美さん 野添みわこさん
	岐阜県地域女性団体協議会	古川芳子さん

第3分科会では、6グループ（6～7人）に分かれてワークショップを行い、日頃支援者としてどんなことを感じているかを話し合いました。

「喜び・やりがいを感じる時」「悩みや疑問に感じる時」をテーマに、グループ毎に話し合った後、それぞれの報告発表をし、その後、参加者全員で意見交換をしました。「いろいろな意見を出し合い、話し合うことで、何が問題なのかがはっきりした」、「地域性、年代毎の課題がみえてきた」などの意見が出されました。

コーディネーターの丸山政子さんは、「今回の研修会の体験を、明日からの現場での実践に生かしてほしい。この研修会がきっかけとなって、一緒に考える仲間が広がって、ゆるやかなネットワークが動き出す。今日が、また最初の一歩である」と話されました。



丸山政子さん



グループごとに発表

◆ プログラム4 全体会 15:30~16:30 会場：小ホール

「分科会報告と意見交換」

コーディネーター 伊藤早苗さん

報告者 第1分科会 延藤安弘さん

第2分科会 安田典子さん

第3分科会 丸山政子さん

初めに各分科会の報告があり、それぞれの分科会の報告者を中心として意見交換がおこなわれました。その後、まとめの中で、延藤安弘さんから、「共生循環表現」ということばが出されました。すべての生きとし生けるものが、お互い助け合い、助けられ、循環し合う中で、おとなもこどもも成長していく・・・。子育て支援活動も、ひとりひとりから始まり、それぞれができることからやっていく。その多種多様な子育て支援活動が、地域の各所にあることが、地域を、まちを、豊かにしていくのではないか。子育て支援拠点事業とは、まさに、草の根から始めて、地域を変えていく・・・。そのような働きがあるのではないか、とのお話がありました。



◆ 閉会挨拶 16:30 会場：小ホール

奥山千鶴子さん NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会理事長

◆ 総合司会 青木幸美さん NPO 法人サン・はぎわら副理事長



青木幸美さん